

ドキ♡

「今日のことは二人の  
秘密だからね」  
フミナお姉ちゃんと  
約束しました。



胸に擦りつけたり。

何度も何度も、  
白白おしっこを出し、  
フミナお姉ちゃんに  
かけました。

Patron Only (Extra +R18)







夏休みのある日。  
僕の従姉の、フミナ  
お姉ちゃんの家族が  
遊びに来ました。

お父さん達は  
親戚への用事で  
みんなで出かけて  
いきました。

「ふたりきりで  
お留守番だね」  
フミナお姉ちゃんが  
言いました。

フミナ  
お姉ちゃん  
と  
夏休み





一年ぶりに会った  
フミナお姉ちゃんに  
なんだかドキドキ  
してしまいます。

「何して遊ぶ？」  
フミナお姉ちゃんが  
訊いてきますが、  
頭に入りません。

お姉ちゃんの胸……  
クラスの女子と全然  
違って、おつきくて、  
むちむちしてる……。





ドキ...

フミナお姉ちゃんは  
いつも薄着で、  
一緒にいると何か  
ドキドキします。

お姉ちゃんを  
見ていると、  
チンチンが硬く  
なってきました。

ドキ...

ドキ...

ドキ...





「ズボンおさえて、  
どうかしたの？」  
フミナお姉ちゃんが  
首をかしげました。

隠しようもなく、  
ズボンの下で、  
僕のオチンチンが  
硬くなっていました。

フミナお姉ちゃんに  
バレた……！  
僕は恥ずかしさで  
真っ赤になりました。

ドキ

ドキ





最近、女の人の裸で  
頭がいっぱい  
なってしまうこと、  
チンチンのこと。

顔を真っ赤にした  
僕の説明を、優しく  
フミナお姉ちゃんは  
聞いてくれました。

「大丈夫、何も変な  
ことじゃないよ」  
フミナお姉ちゃんは  
僕を撫でてくれました。

「女の人の体のこと、  
もっと知りたいの？」  
頷くと、お姉ちゃんは、  
少し迷ってから、服を  
脱ぎはじめました。



ドキ♡

ドキ♡

ドキ♡

ドキ♡



ドキ♡

フミナお姉ちゃんの  
裸……昔、一緒に  
お風呂に入った時  
以来の……。

「絶対に、誰にも  
内緒だからね？」  
フミナお姉ちゃん  
が念押しします。

僕は夢中で首を  
振って頷きました。  
心臓がバクバクと  
鳴っています。

ドキ♡

ドキ♡

ドキ♡





ドクッ...

「ここ、赤ちゃんを作る場所の入り口。フミナお姉ちゃんに女の人の身体について教えてもらいます。」

「男の人のおチンチンを入れて、ゴシゴシするの。そうすると、白っぽい赤ちゃんの素が出て、女の子のお腹の中で赤ちゃんになるの。」

くほ

ドクッ...

ドクッ...

僕は興奮してフミナお姉ちゃんのそこにオチンチンを入れたくてたまらなくなりました。でも.....

お姉ちゃんにそれは止められました。代わりに、お姉ちゃんの身体にオチンチンをすりつけていいよって言われました。

ドクッ...

ドクッ...





僕は夢中で、お姉ちゃんの身体におちんちんを押し付け、擦りました。

お姉ちゃんにチューしたり、お尻やおっぱいを触ったり、おちんちんをふとももに挟んだり……考え付くエッチなことを全部やりました。

ドクッ

ドクッ……

ゾクゾク

ドクッ

くは

チンチンがすごくジンジンして、しもやけになった時みたいでした。

きゅーっと、何かがチンチンの中で膨らんでいくような感じがしました。





んっ♡

「お姉ちゃんっ……  
それっ……」  
腰に電気が走った  
みたいでした。

んっ♡

オチンチンが  
本当に気持ち良くて  
ムズムズして、白い  
おしっこが出ました。

じゅっ♡



ちゅっ♡

♡♡♡

ちゅーっ♡

ちゅっ♡

ちゅっ♡

「もっとすごいこと  
してあげるね……♡」  
フミナお姉ちゃんは  
照れながら言いました。

フミナお姉ちゃんは  
僕を立たせると、  
ゆっくりおちんちん  
に吸い付きました。



「今日のごときは二人の  
秘密だからね」  
フミナお姉ちゃんと  
約束しました。

ドキッ

手でシゴいて  
もらったり、口で  
吸って貰ったり……  
胸に擦りつけたり。

何度も何度も、  
白のおしっこを出し、  
フミナお姉ちゃんに  
かけました。

ほい

ほい



ぽっ

ドキッ

とろっ

来年、またフミナ  
お姉ちゃんが来た時、  
この「遊び」の続きを  
してくれるそうです。

ドキッ

ドキッ











































夏休みのある日。  
僕の従姉の、フミナ  
お姉ちゃんの家族が  
遊びに来ました。

お父さん達は  
親戚への用事で  
みんなで出かけて  
いきました。

「ふたりきりで  
お留守番だね」  
フミナお姉ちゃんが  
言いました。

フミナ  
お姉ちゃん  
と  
夏休み



フミナお姉ちゃんは  
いつも薄着で、  
一緒にいると何か  
ドキドキします。

お姉ちゃんを  
見ていると、  
チンチンが硬く  
なってきました。

「ズボンおさえて、  
どうかしたの？」  
フミナお姉ちゃんが  
首をかしげました。





最近、女の人の裸で  
頭がいつぱいに  
なってしまうこと、  
チンチンのこと。

顔を真っ赤にした  
僕の説明を、優しく  
フミナお姉ちゃんは  
聞いてくれました。

ドキ

「大丈夫、何も変な  
ことじゃないよ」  
フミナお姉ちゃんは  
そう言って服を……

ドキ

ドキ

ドキ





「ここ、赤ちゃんを作る場所の入り口。」  
フミナお姉ちゃんに  
女の人の身体について  
教えてもらいます。

「男の人のおチンチンを入れて、ゴシゴシするの。  
そうすると、白っぽい  
赤ちゃんの素が出て、  
女の子のお腹の中で  
赤ちゃんになるの。」

僕は興奮して  
フミナお姉ちゃんの  
そこにオチンチンを  
入れたくてたまらなく  
なりました。でも……。

お姉ちゃんにそれは  
止められました。  
代わりに、お姉ちゃんの  
身体にオチンチンを  
すりつけていいよって  
言われました。

僕は夢中で、  
お姉ちゃんの身体に  
おちんちんを押し  
付け、擦りました。

チンチンがすごく  
ジンジンして、  
しもやけになった時  
みたいでした。

ドクッ

ドクッ……

ドクッ

くほ





「今日のことは二人の  
秘密だからね」  
フミナお姉ちゃんと  
約束しました。

ドキッ



手でシゴいて  
もらったり、口で  
吸って貰ったり……  
胸に擦りつけたり。

オチンチンが  
本当に気持ち良くて  
ムズムズして、白い  
おしっこが出ました。

ドキッ

来年、またフミナ  
お姉ちゃんが来た時、  
赤ちゃんを作る続きを  
したいと思います。

ドキッ

どろろ……

ドキッ





























